

臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学茨城医療センター消化器外科 では、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の許可のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように個人のプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究にカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。不参加のお申し出があった場合も、患者さんに診療上の不利益が生じることはありません。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

[研究名称]

腸管穿孔性腹膜炎治療における予後因子の検討

[研究の背景]

大腸穿孔は腹膜炎から敗血症を来しやすく、以前は死亡率も6-34%と予後不良でした。しかし、最近では敗血症に対する集中治療の成績の向上を認めています。当院は地域の高齢化の進行で、同様の消化器救急疾患を多く受け入れ、手術+術後集中治療を行ってきています。しかし、その評価に関してはこれまでまとめたことはありませんでした。この研究では、腸管穿孔性腹膜炎にて、当院で治療した患者さんについて、その治療効果について検討し、今後の治療効果改善を目的としています。

[研究の目的]

診療録を用いて、疾患の頻度や分布、臨床的な特性及び疾患の診断法・治療・その他のケアの効果・安全性等に関して適切な解析を行うことにより、新たな診断法・治療法・予防法等を検討する資料とすること、他の方法で収集が困難な情報も含めて解析することで、疾病の予後や生活の質の改善、または健康の維持・増進に資する知見を得ることを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる方

東京医科大学茨城医療センター消化器外科で、腸管穿孔性腹膜炎として治療を要した方

2010年1月1日から2024年12月31日までに治療された患者

●研究期間

研究許可日 ～

2027年3月31日

●利用するカルテ情報

1) 年齢、性別、合併症の情報
2) 血液生化学検査所見、体温、血圧、脈拍の結果
3) 診断根拠 として施行した画像検査
4) 治療した内容(手術、追加治療内容)
5) 生死や在院期間

これらのカルテ情報を用いて解析を行います。

●情報の管理

情報は匿名化を行って、直ちに個人が判別できる情報は含まれないよう加工されます。匿名化された情報から研究対象者を識別できる対応表は、研究責任者の指示に基づき施錠された場所またはパスワードで保護された電子情報として保管されます。保管期限は研究終了または論文公表から5年間です。

診療科(部署)名	消化器外科
情報の管理者名 (研究責任者または研究分担者)	鈴木 修司

[研究組織]

	職名	氏名	研究における役割
研究責任者	主任教授	鈴木 修司	研究統括、情報管理、統計解析

[問い合わせ先]

相談窓口	担当者名	鈴木 修司
	住所	茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1
	施設名	東京医科大学茨城医療センター
	診療科(部署)	消化器外科
	電話番号	029-887-1161 内線 7208